

高品質でおいしい 富山米を食卓へ

「ほおばる幸せ。富山米」



「乳白粒」「基白粒」
「胴割粒」を
防ぐ決め手は、

- 刈取り直前までの
活力維持!
- 適正な収穫・乾燥!



乳白粒



基白粒



胴割粒

「高品質で美味しい富山米」への総仕上げ

～めざせ! 1等米比率90%以上～

1 刈取り直前までの活力維持を!

1 施肥管理で穂揃期の葉色を確保

穂揃期の葉色を4.2～4.5
(砂壤土では4.5)に誘導

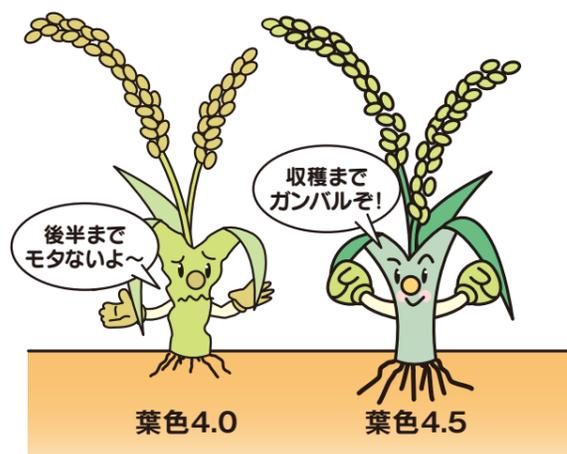
<分施栽培>

1回目の穂肥は的確に
2回目の穂肥は土壌に応じて確実に

<肥効調節型基肥>

出穂7日前に葉色が3.8
(砂壤土では4.0)

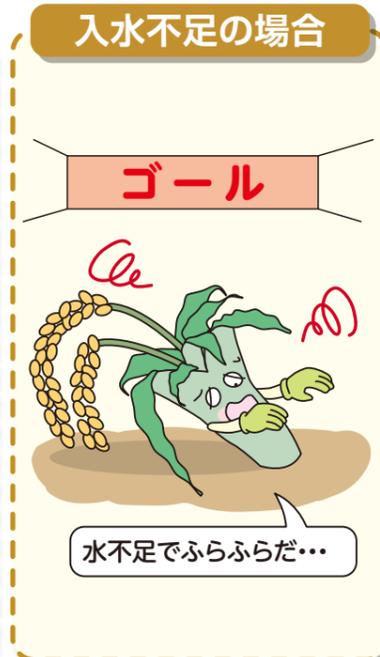
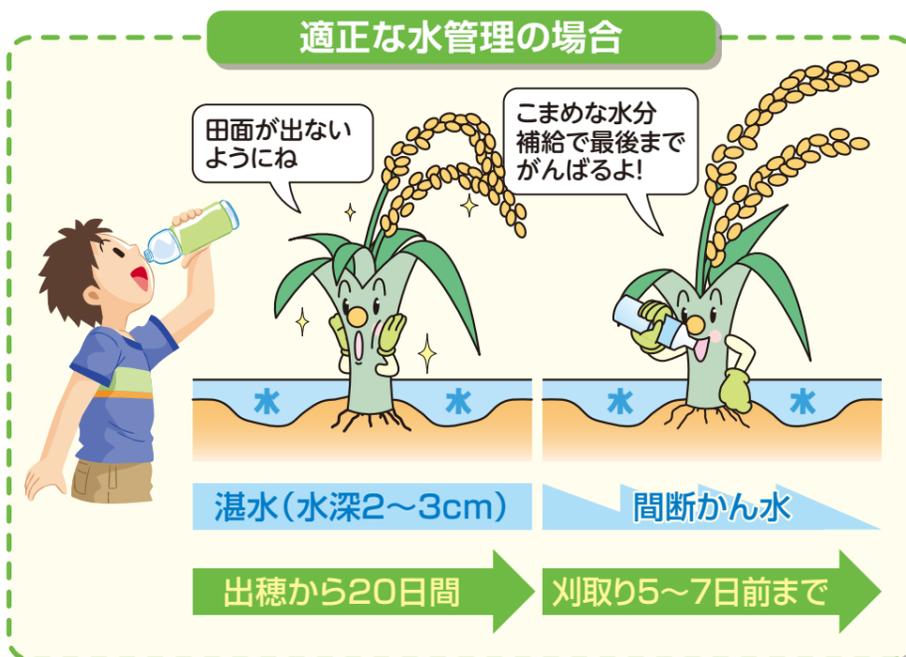
以下の場合、窒素成分で
0.7～1.0kg/10a施用



穂揃期の田んぼでは…

2 刈取り5～7日前までの水管理

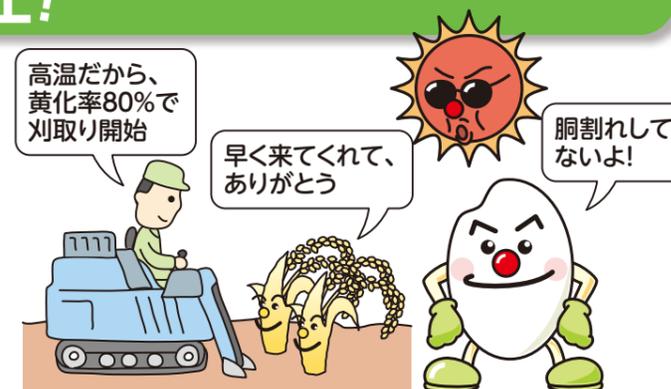
- 出穂から20日間は、湛水管理
- 収穫5～7日前までは、間断かん水
- フェーンが予想される場合は、事前に入水



2 適正作業で胴割れ防止!

1 気象に応じた適期刈取り

- 登熟期の気温が平年並みの場合
積算温度1,000～1,050℃、
籾黄化率85～90%で刈取り
- 登熟期の気温が高温の場合
積算温度950℃、黄化率80%で
刈取り開始



高温で収穫が早回っても対応できるように、収穫・乾燥調製の準備を!

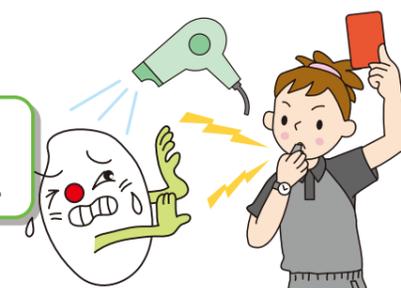
2 慎重な乾燥

- 毎時乾減率0.8%以下でゆっくり乾燥
 - <収穫時の籾水分25%以上の場合>
 - 2～3時間の通風乾燥
 - 二段乾燥の実施
(籾水分17%で一旦停止、半日経過後再乾燥)
 - <収穫時の籾水分20%未満の場合>
 - 機種標準マイナス5℃の送風温度で乾燥
- 玄米水分14.5～15.0%の徹底



図 富山県産米の受検水分14.5%以下の割合(農水省調べ)

- ◆ 1.9mmふるい目の使用で選別を徹底
- ◆ 施設や設備の点検・清掃を徹底して異品種・異物の混入を防止



3 カメムシ防除は確実に!

「病害虫発生注意報」発令!

- 穂揃期の防除は遅れずに(出穂後3～5日目を目安)
- 「てんたかく」など早生は穂揃期と傾穂期の2回防除を実施
- 防除後もカメムシの密度が高い場合は追加防除
- 防除間隔は7日を目安に(間隔が長くならないように注意)



アカヒゲホソミドリカスミカメ

消費者の心をつかむ富山米のブランド化を!

信頼される安全な米づくり

消費者に選ばれる富山米を安全に生産するため、「とやまGAP」に取り組みましょう。

『とやまGAP(ギャップ)』とは

富山県では、**富山県適正農業規範**に基づく適正な農業生産活動の実践を「とやまGAP」と称し、その取組みを推進しています。

まずは、「とやまGAP自己点検シート」を活用して自らの農場における不適切な行為や状態である「BAP(バップ)」がないか点検し、それらの改善に努めましょう。

まずは、自己点検!



とやまGAP自己点検シート

項目	点検結果	備考
1: 『は場の位置・面積等に係る記録の作成』 <安全> 重要 全てのは場がGPSの記録について、適切に管理をされている。	O	
2: 『は場の位置・面積等に係る記録の作成』 <安全> 重要 は場の位置・面積等の記録が適切に管理されている。	△	一部のは場の記録が適切に管理されていない。
3: 『は場の位置・面積等に係る記録の作成』 <安全> 重要 は場の位置・面積等の記録が適切に管理されている。	X	一部のは場の記録が適切に管理されていない。

<とやまGAPの目的と取組例>

【安全な農産物の生産】

農薬・肥料の適正な使用や管理、生産履歴記帳 など

【環境の保全】

廃棄物の適正処理、農薬散布後の1週間止水管理 など

【農業者の安全確保】

危険箇所の把握、機械の点検・整備、保護具の着用 など

土づくりで高温に勝つ!

① 土づくり資材の散布

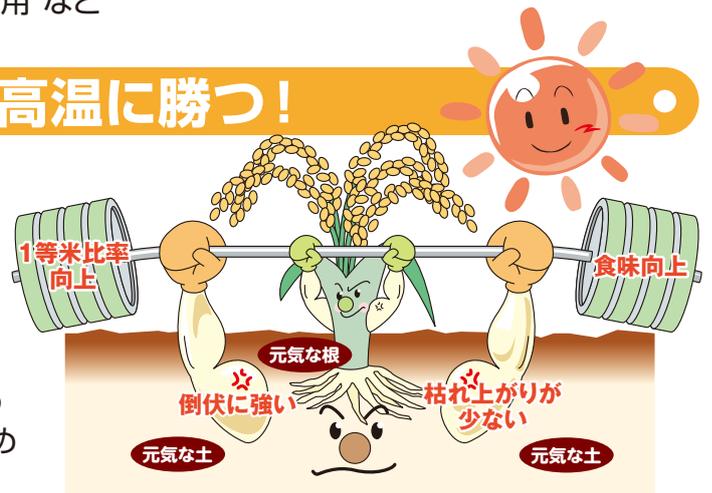
- ケイ酸は、病気や倒伏に強い稲体を作ります
- 土づくり資材は、毎年施用しましょう

② 有機物の施用

- 稲わら、籾がらは焼却せずすき込みましょう
- たい肥や発酵鶏ふんを積極的に施用しましょう
- たい肥の確保が困難な場合は緑肥作物がお勧め

③ 深耕の実施

- 大型機械の踏圧で浅くなった場合は、**プラウ耕等を活用**し作土を深くしましょう
- 秋耕しと春耕しの2回掛けで、**現状+3cm、15cm以上の作土を確保**しましょう
- 秋耕し後は排水溝を設け水はけを良くし、稲わらなどの腐熟を促しましょう



秋の農作業安全運動

秋の農繁期には、コンバインによる事故が毎年多く発生します。農業経営の維持・安定のためにも、農作業中の事故防止対策を徹底しましょう。

- 万一の事故に備え、労災保険に加入する
- 巻き込まれにくい服装を着用する
- コンバインの詰まりを取り除く時は、**必ずエンジンを切る**
- 手こぎ作業時は、手こぎ位置や足場を安定化させる

